

2025年度 ニチキッズ茶屋町小規模保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月5日（月）～1月31日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月10日（火）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	おもいっきり保育実現のために、子ども一人ひとりの個性や興味関心を尊重し、常に「こどもまんなか」の保育を意識し、子どもの新しい発見や気づきを大切に、子ども達一人ひとりが生活・遊びの主役となるよう努めた。
子どもの発達援助	子どもの個性をありのまま愛情豊かに受け止め、自我の芽生えを大切にしながら愛着関係を築くことに努めた。 異年齢児の関わりにおいて、年齢の枠を超え相互に刺激し合い、お互いに学び成長出来る環境づくりに努めたが、それぞれが興味・関心、好きな遊びに集中して安全に遊べる環境づくりを工夫する必要がある。
保護者に対する支援	保護者一人ひとりの思いに寄り添い、共感的に丁寧に関わることに努め、日々の対話の中で子どもの成長を共に喜び合える関係作りを目指した。 また、子育てひろばや活動体験会を通して地域の子育て支援の一端を担う施設であることを意識し取り組めた。
保育を支える組織的基盤	全職員で子ども達の成長を見守り、ミーティングなどにおいて情報共有を図ったが不十分な点があり課題である。また、職員は外部、社内研修を定期的に受講し保育の振り返りや学びの機会を作り、園内研修での共有周知を通して専門性の資質向上を図った。

総評
職員一人ひとりが「保育の振り返り」を行い、危機管理意識の向上に努めながら環境や保育の見直しとミーティング等を定期的に行うことが出来た。情報共有においては周知や伝達方法に課題が残ったが、子ども達の成長や気づきをありのままに受け止め、次年度以降も保護者の皆様と共有し、より一層相互理解を深めながら、子ども達の育ちを安全に支えるよう努めてまいります。